

燃料電池・ワイン科学・ロボットなど、最先端の研究を知る絶好の機会。「高大連携スーパーサイエンス(仮称)」が、いよいよ来年度からスタート。



巨摩高校において、高校1年レベルのわかりやすい内容で、山梨大学の先生の講義や実験が受けられます。

「高大連携スーパーサイエンス(仮称)」の調印式が5月19日、山梨大学で中川恭彦山梨大学工学部長、奥水秀志巨摩高校校長ら関係者8名が出席して行われました。

計画では電気電子システム工学など各学科のほかクリーンエネルギーなどの分野で、山梨大学の先生の講義を5・6・9月の土曜日に年間9回程度開講予定。1年生が対象ですが、理数コースをはじめ他のクラス、他の学年の生徒も受講でき、単位認定されます。また保護者や地域住民にも開放する予定です。燃料電池・ワイン科学・ロボットなど山梨大学ならではの最先端の研究を知る絶好の機会となります。

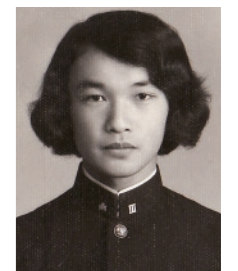
巨摩高校の理数教育の充実を図りたい。生徒の進路実現のための一助としたい。地域に密着した高校でありたい。開かれた大学を目指したい。様々な思いが一つになった「高大連携スーパーサイエンス」は来年度スタートします。



が・ん・ば・る
センセイ07

安藤 十三男 先生
2学年主任・吹奏楽部顧問

巨摩高生として
絶えず自分を磨いて
輝いてほしい。



高校時代の安藤十三男先生。

先生と吹奏楽との出会いは、甲西中学校時代。サクソ奏者として、県大会初出場初優勝を成し遂げたそうです。巨摩高3年生の時には学生指揮者として県3位に入賞しました。

「高校の恩師、米山先生は人間的にもすばらしく、音楽的視野も広げていただいた気がします。大学時代は国文学の他にリコーダーによる古楽にはまっていたワインコンサートをしたこともありますよ。」とのこと。

教師となって2年目に吹奏楽部の顧問となり、甲府、都留、甲府西の各校で関東大会に出場するバンドを育ててきました。校内の指導以外にも、JBA(日本吹奏楽指導者協会)の理事、社会人バンドの指導者、図書館協議会の全国審査員などを務め、多忙な日々を送っています。

「巨摩高吹奏楽部は、宝石にたとえると原石。磨けばぎと光る素材を持っていると思いますよ。何よりもまず、音楽に対するひたむきな情熱を持っています。全国レベルのバンドに育ってほしいと思っています。校歌に「滝沢川の礫石、集ひて絶えず磨くなり」とありますが、吹奏楽部員に限らず、多くの生徒が、巨摩高生として絶えず自分を磨いて輝いてほしい。」と熱く語ってくれました。

編集後記
Editor's Room

地方都市というどのような風景を想像するだろうか▼大きなデパートはないが、いくつもの商店が寄り添うように軒を並べる。近在の集落から買い物に来る人々でにぎわう日曜の昼下がり。その風景に欠かせないのが、学生服やセーラー服をまとった地元の高校生姿であろう▼大学こそないが、昔からの街自慢の伝統校があり、OBがたくさんいて、甲子園に出ていたりする。街と人と学校が一つのアイデンティティーを形作っている。人間関係がちょっと濃密だが、人情に厚い▼そんな街の風景が、崩れつつあるような気がする。古くからの商店街にはシャッターが下ろされ、郊外に大資本のショッピングセンターが群立し、山間部の集落は冠婚葬祭もままならないほど若年層が減少している。そして高校生はバスに揺られ遠い県都まで通学する…重松清の「熱球」を読みながら、そんな寂しい風景を想像してみた▼巨摩高校のある風景はどのように変わっていくのだろうか。時の流れは止めることはできないが、変えられる。そして変えることのできるの、他ならぬ人の力だ。人の集まる場所に力が漲り、輝きがふりそそぐ。そんな南アルプス市の風景の一コマの巨摩高校であってほしい。

巨摩高だより KOMA! 19

発行◎山梨県立巨摩高等学校
〒400-0306 山梨県南アルプス市小笠原1500-2
TEL.055-282-1163 FAX.055-282-1104

発行日◎平成20年7月18日
編集◎山梨県立巨摩高等学校 図書教養係

巨摩高校のコト、もっと知りたくなったら、ホームページにアクセス!!

巨摩高校 検索

URL <http://www.ko.kai.ed.jp/>
Mail info@ko.kai.ed.jp

「巨摩高だより Volume.19」には、こんな内容を掲載しました。
P02◎「ホットないい気分」校長 奥水秀志 P02◎[特集01]今年で10年目を迎えた、巨摩高校の国際交流事業「海外の高校生と共に学び、共に楽しむ」 P03◎[特集02]第54回白嶺祭「響—HIBIKI—」 P04◎[特集03]高大連携スーパーサイエンス/[連載 がんばるセンセイ]安藤十三男先生(2学年主任・吹奏楽部顧問)



響
HIBIKI

全校生徒・職員が一丸となって取り組み、多くの人の心に、すばらしい感動と「響」を与えてくれました。

第54回
白嶺祭
特集

